

【準特選】

ぼくが考える人権

浜小学校 五年 山口 真秀

「人権とはなんだろう？」

ぼくは、人権作文を書こうと思ったときに、ふと考えました。これまでに、何度か人権作文を書いたことはあったけど、よくわからないまま書いていました。今年は、自分なりに「人権」というものを考えてみようと思います。

ぼくが考える人権は、ぼくが思っている生活の当たり前のようにおくれることだと思います。ふつ々の生活とは、朝起きることができて、昼は学校に行き、夜は家族と話をしている、毎日三食しっかり食べることができる生活のことです。

しかし、以前、テレビ番組で、他の国ではふつ々の生活ができない子どもたちがたくさんいるということを知りました。

例えば、小さいころから病気で病院のベッドで寝たきりの子ども、勉強がしたくても生きていくために家の手伝いなどで学校に行くことができない子ども、お金がなかったり、国の方針によって自分の親と一緒に過ごせなかったりする子ども、毎日生きていくために今のぼくたちには考えられないことをしなければならぬ子どもたちがいます。人が生きていく上で、大きなえいきょうを与えるもの一つに「周りの環境」があります。人々の人権が大切にされない環境や、人権というものを考える余裕さえもないような環境のなかで、けんめいに生きている人たちがいます。ぼくは、そんな人たちにも、ぼくが考えているふつ々の生

活を当たり前のように送ってほしいと思います。

世界の中でも小さな国であるこの日本でさえ、そんなふうの生活を当たり前のようにおくることができない人たちがいると、聞いたことがあります。

すべての人が、人として生きていくためには、自分のことだけでなく、周りの人にはもちろん、自分が会ったことのないような人、世界中の人たちのことを少しでも考えられる人が増えてくると、もっとこの世界はよくなると思います。

人権というもの、そんな世界を作っていくための大きなものの一つだと思います。一人ひとりが、人権というものを少しでも考えることによって、より良い世界になっていくと思います。

この作文を書いていく中で、ぼくはぼくなりに入権につ

いて考えることができました。すべての人にとって、ふうの生活が当たり前のように送ることのできる世界にするために、人権についてももっと勉強して、人権というものをもっと大切にしていきたいと思います。